

いちご(野菜類)

病害虫	防除方法	防除上の注意事項
ウイルス病	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス無病苗から採った苗を使用する。 2. アブラムシ伝染するので、アブラムシの防除に努める(アブラムシの項参照)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス病の病原には、アブラムシによって媒介されるストロベリ・モットルウイルス(SMoV)、ストロベリ・ペインバンデングウイルス(SVBV)、ストロベリ・マイルドイエローエッジウイルス(SMYEV)、ストロベリ・クリンクルウイルス(SCrV)、イチゴ潜在Cウイルス(SLCV)と土壌伝染をするタバコモザイクウイルス(TMV)、タバコネクロシスウイルス(TNV)がある。 2. ウイルス無病苗は栽培を続けると時間の経過とともに数種類のウイルスに感染する。従って約3年をめどに新しい無病苗に更新する。
萎黄病	<ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗親株には無病苗を利用し、前年に発病した圃場からは採苗しない。 2. 採苗はできるだけベンチを利用し、プランター等の隔離床で行う。 2. 採苗床、定植床は、適切な方法で土壌消毒を実施するか、前年に多発した場合は培地の交換も検討する。 3. 育苗用資材等はできるだけ残渣や汚れを洗い流したうえで、ケミクロンG等の資材消毒剤で消毒する。 4. 発病株および発病株から発生したランナーは抜き取って処分し、圃場内や圃場周辺に放置しない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 萎黄病は、土壌伝染のほか、ランナーを介して伝染する。 2. 発病初期は典型病徴(小葉の奇形、維管束の褐変)がはっきりしないこともあるため注意する。 3. ケミクロンGは強力な酸化剤のため、取り扱い際には次の事項に注意する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)消毒は日陰で行う。 (2)金属類に使用した場合には必ず水洗いする。
乾腐病	<ol style="list-style-type: none"> 1. 採苗床及び定植床は、次の方法で土壌消毒を行う。蒸気消毒 80℃以上10～15分 2. 過剰施肥を避け、適正な土壌管理を行う。 3. 無病苗から採った苗を使用する。 4. 発病株は抜き取って焼却処分する。 5. 発病したベッド及び資材はケミクロンGで消毒する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土壌消毒の項を参照。 2. ケミクロンGは強力な酸化剤のため、取り扱い際には次の事項に注意する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)消毒は日陰で行う。 (2)金属類に使用した場合には必ず水洗いする。